

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社人形劇団クラルテ
公演団体名	人形劇団クラルテ

内容
<p>人形劇のオープニング、オオカミのガブとヤギのメイが会うきっかけとなる嵐の場面を、代表児童に表現してもらいます。のどかな風景から一転、嵐に巻きこまれるヤギやオオカミを演じてもらいます。本編のガブとメイの出会いを更にドラマチックにするための導入部分を劇団員と一緒に創ります。</p> <p>ワークショップ前半は、色画用紙を使って1人1体ヤギかオオカミの人形を製作します。後半はその人形を動かし表現を体験していただきます。自分の体ではなく“人形”で表現するということは想像力を広げることだけでなく、客観的に物を考えることにもつながります。</p> <p>※本番を想定した芝居の稽古は、本公演日のリハーサル時に行います。</p> <p>参加児童数目安 ワークショップ約40名、本公演劇参加約20名 人形製作用の画用紙は各学校でご用意ください。</p>

タイムスケジュール（標準）
<p>〔ワークショップの流れ〕※学校ごとに若干内容を変えさせていただきます。</p> <p>1時限目・・・画用紙を使って1人1体ヤギかオオカミの人形を製作する。 ・世界にひとつだけの人形を自分で作ることによって、人形に感情移入し、よりイメージを膨らませることができます。</p> <p>2時限目・・・人形で表現する ・ヤギチームとオオカミチームに分かれ、製作した人形の動かし方や表現を体験していただきます。</p> <p>人形操作の基本…人形の持ち方、人形の歩き方・動作・目線、人形を遣う時の姿勢など</p>

派遣者数
3名

学校における事前指導
<p>ワークショップに参加する児童に、それぞれヤギかオオカミ（約半数ずつ）どちらを作って演じるか話し合っておいてください。</p> <p>また、より理解を深める為に、児童にヤギとオオカミについて調べるなど、ご指導お願い致します。</p> <p>その他、作品パンフレットの校内掲示や原作本の紹介など、公演の周知をしてください。本事業のプログラムの配布をお願いします。</p>

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社人形劇団クラルテ
公演団体名	人形劇団クラルテ

演目
人形劇『あらしのよるに』原作／木村裕一 講談社刊「あらしのよるに」シリーズ1～6巻より 日本図書館協定選定図書

派遣者数
出演者8名 スタッフ1名 計9名

タイムスケジュール（標準）
準備（搬入・仕込み）…2時間30分 ※会場条件により若干異なります。前日に準備をさせていただく場合もございます。 リハーサル…45分（児童と共に） 鑑賞…1時間20分（本編1時間10分+児童共演部分10分）全校児童 撤収（バラシ・搬出）…1時間30分

実施校への協力依頼人員
児童との共演場面に、先生にも風の役として1名ご参加いただいております。 保護者の観劇などでイスが必要な場合、イスのご準備及び片付けをお願いします。

演目解説
『あらしのよるに』原作／木村裕一（講談社刊）シリーズ1～6巻より 脚色／東口次登 演出／三木孝信 美術／西島加寿子 音楽／一ノ瀬季生 ～本当の友だち～ 立場を越えて相手を思いやり、心を通じ合わせることの素晴らしさを、命のドラマを通して子ども達に伝えられたらと願います。ダイナミックな人形劇でお届けいたします。 《あらすじ》あらしの夜、暗闇の小屋の中でオオカミのガブとヤギのメイが出会い、カミナリに震えながら嵐が過ぎるのを待っていた。真っ暗な中、互いを仲間だと思い込んだ二匹はすっかり意気投合。「次は明るい空の下でピクニックに行こう！」と約束をした。合言葉は「あらしのよるに」。翌日、二匹は相手の正体を知り、驚きながらも、「食いたい」という欲望を理性で押さえ込むガブと、無邪気なメイ。そんな二匹が無二の親友になるには時間はかからなかった。しかし、ガブは仲間のオオカミに「ヤギはえさだ。えさと友達になったりしたら、俺たちは生きられないんだ」と言われ、メイも「生まれた時から一緒に俺たちと、この間知り合ったばかりの友達とどっちが大切なんだ」と責め立てられることに。オオカミとヤギが幸せに暮らせる新天地を目指して、二匹は歩き始めた。息もつけないほどの吹雪の中へ・・・。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

■参加方法

劇のオープニング、メイとガブが出会うきっかけとなる嵐になる大事な場面を、ヤギの役とオオカミの役の 2 グループに分かれて子ども達に人形で表現してもらいます。子ども達にはヤギかオオカミの人形を一体ずつ作ってもらい、実際に人形を動かし、セリフを言って演じてもらいます。

ヤギが平穏な草原で草を食べているところに、オオカミがヤギを見つけて追いかけてこが始まります。そして、次第に雲行きが怪しくなり、嵐になり、互いに逃げ惑うというワンシーンを作ってもらいます。その後、客席に戻り、続きの人形劇を観劇してもらいます。

■工夫

- ・ワークショップでも本番でも、世界でひとつだけの自分で作った人形を遣うことで、人形に感情移入したり、イメージを膨らませたりしやすくなります。
- ・本番までの間にそれぞれ好きなように色を塗ったり色紙を貼ったりして装飾してもらうように促すことで人形により愛着がわき、本番までのモチベーションを高めることができます。
- ・舞台エリアの関係上、本番の出演人数には限りがあるので、学校によっては一部の児童のみの出演となりますが、本番に出演しない児童もワークショップでは共に人形を遣い、劇の一部を体験してもらうことでコミュニケーション能力を高め、人形劇の楽しさを感じていただきます。そして本番当日も出演する児童と共にリハーサルから参加し、舞台の前から見るとどのよう見えているか、人形の動きやセリフなどへのアドバイスをする役目として参加してもらいます。そのことで、本番に向けて全員で劇を作っているという意識を持ち、人形劇全体への理解も深まります。

児童生徒とのふれあい

ワークショップは、前半は人形を製作しながら交流を深めていきます。後半はヤギチームとオオカミチームに分かれ、人形を動かす練習をし、場面を表現してもらいます。さらに本番当日に、出演する児童とリハーサルを行い、本番に向けて意識を高めてもらいながら、共に芝居を創る者同士という視点に立ち、良い緊張感を共有したいと思います。終演後には劇出演やワークショップに参加された児童生徒との交流の時間を設け、感想や質問を聞いたり記念撮影をするなどの交流をします。

ご希望により、終演後に舞台裏見学や人形操作体験なども可能です。